

- 問1 古代の日中関係をまとめた学習レポートにおいて、5世紀のヤマト王権による外交について記述する場合、その内容として正しいものはどれですか。（2025年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 邪馬台国の卑弥呼が中国の魏に使節を派遣し、「親魏倭王」の称号とともに金印を授かり、国内の小国連合の統制を強めた。 | 2. 小野妹子が遣隋使として中国の隋へ派遣され、対等な立場での外交を求める国書を提出して、新しい官制や憲法を導入しようとした。 | 3. 「倭の五王」と呼ばれる王たちが、中国の南朝に使節を派遣し、朝鮮半島での軍事的な指揮権や自らの地位を認めさせようとした。 | 4. 奴国の王が中国の後漢へ使節を派遣し、光武帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かって、北九州での地位を確立した。 |
|---|---|--|---|
- 問2 長崎県壱岐市の「原の辻遺跡」は、大規模な環濠集落を特徴とし、中国の歴史書に登場する「一支国（いきこく）」の王都とされています。この一支国も含まれる当時の倭国の様子や、女王卑弥呼が中国へ使者を送った出来事について詳しく記されている書物はどれですか。（2017年 長崎県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|------------|------------|-------------|
| 1. 『漢書』地理志 | 2. 『宋書』倭国伝 | 3. 『魏志』倭人伝 | 4. 『後漢書』東夷伝 |
|------------|------------|------------|-------------|
- 問3 弥生時代の集落において、収穫した稲を保存するために用いられた建築物の構造と、その目的について説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 建物の周りに深い堀を巡らせ、収穫物が雨水によって浸水したり流失したりするのを防ぐ排水機能を重視した。 | 2. 地面を円形や方形に掘り下げて床とし、防寒性を高めることで家族が共同で生活するための居住空間とした。 | 3. 建物の周囲に石垣を高く積み上げ、収穫した作物を敵対する他の集落による略奪から守るための防衛施設とした。 | 4. 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。 |
|---|--|--|--|
- 問4 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏に使いを送り「朝貢」を行った政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 岩手県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 中国から仏教を公式に導入することで、宗教の力を用いて争いの絶えない国内を鎮めるため | 2. 中国の進んだ稲作技術を独占し、食料生産を安定させることで人口を増やすため | 3. 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため | 4. 中国の優れた文字（漢字）を学び、律令制度に基づいた中央集権国家をいち早く形成するため |
|--|---|--|---|
- 問5 弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 滋賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------------|--|--|---|
| 1. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。 | 2. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることで死者の霊を慰める役割を果たした。 | 3. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。 | 4. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。 |
|---------------------------------------|--|--|---|
- 問6 弥生時代に稲作が普及すると、土地や水の利用をめぐる集団間の争いが起こるようになりました。こうした外敵の攻撃から集落を守るために、周囲に深い堀や柵を巡らせた当時の集落の形態を何といいますか。（2021年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 高床倉庫 | 2. 竪穴住居 | 3. 高地性集落 | 4. 環濠集落 |
|---------|---------|----------|---------|
- 問7 倭の奴国の王が、中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀（西暦57年）ごろの世界情勢について、ヨーロッパや地中海周辺の動きを説明したものとして正しいものはどれですか。（2026年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| 1. アレクサンドロス大王が東方遠征を行い、ヘレニズム文化が広がっていた | 2. 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた | 3. ギリシャ人が地中海沿岸の各地にポリス（都市国家）を建設し始めた | 4. 西ローマ帝国が滅亡し、ゲルマン人の大移動が本格化していた |
|--------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
- 問8 古代の倭（日本）の王や諸国の首長が、中国の皇帝へ貢物を送った「朝貢外交」の主な目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 中国の皇帝から自らの地位や権威を認められ、国内や周辺諸国に対する統治の正当性を得るため | 2. 中国大陸での戦乱を鎮めるために、日本の強力な軍勢力を提供して外交上の恩を売るため | 3. 中国にある高度な仏教建築の技術を独占的に導入し、日本国内に巨大な寺院を建立するため | 4. 中国の王朝を軍事的に支配下に置き、その領土を大陸側へ広げるための足がかりにするため |
|--|---|--|--|
- 問9 鳥取県の青谷上寺地遺跡などの出土品をまとめた資料では、木製品や骨角器とともに、石器、金属器、そしてこの時代の特徴的な土器が並んで示されています。これらの道具が併用されていた弥生時代の土器に見られる、縄文土器と比較した際の外見上の特徴として、最も適切なものはどれか。（2016年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|
| 1. 青灰色をしており、非常に硬く焼かれた朝鮮半島由来の技術で作られている | 2. 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である | 3. 仏教の儀式に用いるために、表面に金色の装飾や仏像が描かれている | 4. 表面に縄目のような力強い文様がつけられ、全体的に厚手である |
|---------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|
- 問10 弥生時代に大陸から日本列島へ伝わった金属器の特色について、銅鐸の性質をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 銅鐸に代表される青銅器は、古墳時代になってから初めて製作され、巨大な墓に副葬された | 2. 青銅器は、鉄器よりも硬く鋭いため、主に開墾用の農具や実戦用の武器として普及した | 3. 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった | 4. 銅鐸は文字を記録するための道具として開発され、当時の律令制度を庶民に伝えるために使われた |
|--|--|--|---|
- 問11 弥生時代の3世紀、邪馬台国の卑弥呼が中国の「魏」に対して使いを送った目的と、その結果として当時の国際情勢から読み取れる背景として最も適切なものはどれか。（2017年 東京都公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 隋の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して「日出づる処の天子」という国書を届けさせた。 | 2. 日宋貿易を円滑に進めるために、大輪田泊のような港湾施設を整備して中国との経済的な結びつきを重視した。 | 3. 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。 | 4. 全国的な徴税制度である大宝律令を確立させるために、中国から法制度の専門家を招いて政治改革を推進した。 |
|---|---|---|---|
- 問12 3世紀の日本において、邪馬台国の女王であった卑弥呼は、中国の北部に位置した「魏」という国に使節を送りました。その際、魏の皇帝から授けられた称号として正しいものを、次のうちから選びなさい。（2021年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|--------|---------|----------|
| 1. 漢委奴国王 | 2. 遣隋使 | 3. 親魏倭王 | 4. 征夷大將軍 |
|----------|--------|---------|----------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 「倭の五王」と呼ばれる王たちが、中国の南朝に使節を派遣し、朝鮮半島での軍事的な指揮権や自らの地位を認めさせようとした。	5世紀のヤマト王権（倭）では、「讃・珍・済・興・武」の5人の王（倭の五王）が、中国の南朝に次々と使節を送りました。これは当時の中国の歴史書である『宋書』倭国伝に記されています。彼らは、朝鮮半島の百濟や加羅（加耶）などに対する軍事的な指揮権や影響力を中国の皇帝に認めてもらうことで、国際的な地位を高めようとしていました。3世紀の卑弥呼は「魏」に、1世紀の奴国王は「後漢」に使節を送っており、時期と王朝の組み合わせを正しく把握することが重要です。
問2	答え 3 『魏志』倭人伝	3世紀の日本の社会情勢や地理、卑弥呼の統治については、中国の三国時代の歴史書「三国志」の一部である『魏志』倭人伝に記載があります。原の辻遺跡のような環濠集落の存在は、当時の倭国が多くの小国に分かれ、交易を行いつつも対立や防衛を繰り返していた社会状況を裏付けています。
問3	答え 4 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。	弥生時代に本格的な稲作が始まると、秋に収穫した米を翌年の春まで保存するなどの長期間の貯蔵が必要になりました。高床倉庫は、床を高くすることで地面からの湿気が伝わるのを防ぎ、米が腐るのを抑える工夫がなされています。また、柱の上の部分には「ねずみ返し」と呼ばれる板が取り付けられ、食料を食い荒らすネズミの侵入を防いでいました。選択肢にある地面を掘り下げる建築物は竪穴住居であり、主に居住用として使われていたものです。
問4	答え 3 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため	当時の日本（倭）は多くの小国が争っている状態でしたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合をまとめ、中国の強大な王朝である魏に朝貢しました。魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印を授かることで、中国という後ろ盾があることを他の国々に見せつけ、国内の統治を有利に進めようとする外交上の狙いがありました。
問5	答え 1 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。
問6	答え 4 環濠集落	稲作の開始によって収穫物の貯蔵が可能になり、富をめぐる集団間の対立が発生しました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるように、当時の人々は居住区の周囲に堀（環濠）を掘ったり、木の杭による柵を設けたりすることで、外部からの侵入を防ぐ工夫をしていました。これが環濠集落です。
問7	答え 2 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた	日本が後漢と交渉を持っていた紀元1世紀ごろ、ヨーロッパでは地中海全域を支配するローマ帝国が全盛期を迎えていました。この時期は中国の漢王朝とローマ帝国の間で、シルクロードを通じた間接的な交流が行われていた時代でもあります。ギリシャのポリス建設は紀元前8世紀ごろ、アレクサンドロス大王の遠征は紀元前4世紀ごろの出来事です。
問8	答え 1 中国の皇帝から自らの地位や権威を認めてもらい、国内や周辺諸国に対する統治の正当性を得るため	古代の東アジアでは、中国の皇帝を中心とした国際秩序が形成されていました。倭の王たちは、圧倒的な力を持つ中国の皇帝に貢物を送り（朝貢）、臣下としての称号を受けることで、自分が正当な支配者であることを国内外に示す材料としました。
問9	答え 2 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である	弥生土器は、装飾が豊かだった縄文土器と比較して、表面に細目の文様が施されるなどデザインが簡素化され、調理や貯蔵に適した薄くて機能的な形状へと変化しました。青谷上寺地遺跡のように、金属器や木製品など多様な道具が登場した背景には、稲作を中心とした計画的な生産活動への移行があります。
問10	答え 3 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった	弥生時代には、青銅器と鉄器がほぼ同時に大陸から伝わりました。実用的な道具として、鋭利な刃物が必要な武器や工具には「鉄器」が主に使われた一方で、光沢があり希少な「青銅器」は、銅鐸や銅鏡、銅剣（儀礼用）のように、祭礼や集落の権威を示すための道具として使い分けられました。銅鐸は特に稲作の豊穰を願う集落の共同祭祀に深く関わっていました。
問11	答え 3 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。	当時の東アジアでは、中国の皇帝に朝貢して臣下としての称号を受けることで、周辺諸国の王が自らの地位を保証してもらう「冊封（さくほう）」という仕組みがありました。多くの小国が対立していた弥生時代の日本（倭）において、卑弥呼が強力な「魏」の皇帝から「親魏倭王」の称号を得たことは、他の勢力に対して自らの権威を示す強力な武器となりました。聖徳太子が隋に対して対等な外交を試みたのは後の7世紀の出来事であり、卑弥呼の時代はまだ中国を中心とした秩序を利用して国内統治を安定させようとしていた段階にあたります。
問12	答え 3 親魏倭王	中国の歴史書である『魏志』倭人伝によると、邪馬台国の卑弥呼は239年に魏へ使節を派遣しました。当時の倭（日本）は多くの小国が争う不安定な状況にありましたが、卑弥呼は強力な魏との外交関係を結ぶことで、「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かり、自らの支配の正当性や権威を高めようとしたと考えられています。